

神奈川県立鶴見高等学校 学則

第1章 総則

(名称)

第1条 本校は、神奈川県立鶴見高等学校と称する。

(目的)

第2条 本校は、中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育を施すことを目的とする。

(位置)

第3条 本校は、横浜市鶴見区下末吉6丁目2番1号に置く。

(課程及び学科の設置)

第4条 本校の課程及び学科は、全日制の課程・普通科とする。

(修業年限)

第5条 本校の修業年限は、3年とする。

2生徒が本校に在学することのできる年数は、6年とする。ただし、校長が6年を超えて在学することについて特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(生徒の定員)

第6条 生徒の定員は、別に定めるところによる。

第2章 学年、学期、休業日等

(学年)

第7条 本校の学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第8条 学年を分けて、次の2学期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から3月31日まで

(休業日)

第9条 本校の休業日は、次のとおりとする。

(1)国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)の規定する休日(第3号に該当するものを除く。次号において同じ。)

(2)日曜日及び土曜日

(3)学年始、夏季、冬季、学年末等の休業として校長があらかじめ教育長に届け出た日

(4)学校教育法施行令(昭和28年政令第340号)第29条に規定する体験的学習活動等休業日として校長が別に定める日(前3号に該当するものを除く。)

2前項第3号及び第4号に規定する休業日の日数は、第9条第1項に定める学年

で通算して 60 日以内とする。

(振替授業)

第 10 条 教育の実施上特別の事情があるときは、授業日と休業日を、又は、休業日と授業日をそれぞれ相互に振り替えることがある。

(臨時休業)

第 11 条 校長は、非常変災その他急迫の事情があるとき、又は教育の実施上特別の事情があるときは、臨時に休業とすることがある。

第 3 章 教育課程、教科書等

(教育課程)

第 12 条 教育課程は、高等学校学習指導要領の基準により、校長が編成する。

2 各教科に属する科目、特別活動の単位数及び授業時数は校長が別に定める。

(教科書等)

第 13 条 本校で使用する教科書(教科書の発行に関する臨時措置法(昭和 23 年法律第 132 号)第 2 条に規定する教科書をいう。)は、神奈川県教育委員会(以下「教育委員会」という。)が採択したものとする。

2 前項に規定する教科書がない場合には、校長が選定する他の適切な教科用図書を使用することがある。

第 4 章 修了及び卒業の認定等

(修了の認定、卒業の認定及び卒業証書授与)

第 14 条 校長は、各学年の課程の修了を認定するに当たっては、生徒の出席状況その他の平素の成績を評価してこれを行い、すべての課程を修了したと認めた生徒には、卒業を認定し、卒業証書を授与する。

(卒業認定等の基準)

第 15 条 前条 に規定する卒業の認定等にかかる基準及び手続は、校長が別に定める。

(原級留め置き)

第 16 条 校長は、当該学年の所定の教育課程を修了することができなかった生徒について教育上必要があるときは、その者を原級に留め置くことがある。

第 5 章 入学、転学、留学、休学、退学等

(入学資格)

第 17 条 本校に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当するものでなければならない。

(1) 中学校若しくはこれに準ずる学校若しくは義務教育学校を卒業した者又は中等教育学校の前期課程を修了した者

- (2) 外国において、学校教育における9年の課程を修了した者
- (3) 文部科学大臣が中学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の該当課程を修了した者
- (4) 文部科学大臣の指定した者
- (5) 文部科学大臣が別に定めるところにより、中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認定された者
- (6) 校長が中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(編入学資格)

第18条 第1学年の途中又は第2学年以上に入学を許可される者は、相当年齢に達し、当該学年に在学する者と同等以上の学力があると認められた者とする。

(入学の志願)

第19条 本校に入学を志願する者は、指定された期間内に入学願書その他所定の書類を校長に提出するとともに、入学検定料を納付しなければならない。

(入学者の選抜)

第20条 入学者の選抜は、教育委員会の定めるところに従い、校長がこれを行う。
2 編入学者の選抜は、校長が別に行う。

(入学の許可及び手続き)

第21条 入学の許可は校長がこれを行う。
2 入学を許可された者は、指定された日までに、学校所定の書類を校長に提出するとともに、入学料を納付しなければならない。

(転学)

第22条 校長は、他の高等学校から本校に転入学を志望する生徒があるときは、教育上支障がないと認める場合に限り、転入学を許可することがある。
2 転入学を志望する生徒は、転入学願その他所定の書類を校長に提出しなければならない。
3 転入学者の選抜は、校長がこれを行う。

第23条 他の高等学校に転学を志望する生徒は、転学願を校長に提出し、その許可を受けなければならない。

(留学)

第24条 校長は、生徒が外国の高等学校への留学を志望するときは、教育上有益と認める場合に、留学を許可することがある。
2 留学を志望する生徒は、留学願を校長に提出しなければならない。
3 留学についてのその他の取扱いは、校長が別に定める。

(休学及び退学)

第25条 生徒が傷病その他やむを得ない理由のため休学し、又は退学しようとするときは、保護者等は、休学願又は退学願に医師の診断書等その理由を証明する書類を添え

て提出し、校長の許可を受けなければならない。

2 休学の期間は、学年の終わりまでとし、継続の必要があるときは、改めて許可を受けなければならない。ただし、通じて2年を超えることはできない。

3 校長は生徒のうち、休養又は療養の必要があると認める者があるときは、これに休学を命ずることがある。

(復学及び再入学)

第 26 条 休学中の生徒が、休学の理由が消滅したことにより、又は休学期間が満了したことにより復学しようとするときは、保護者等は、復学願に医師の診断書等その事実を証明する書類を添えて校長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 中途退学した生徒が再入学しようとするときは、再入学願その他所定の書類を校長に提出しなければならない。

3 再入学者の選抜は、校長がこれを行う。

(欠席)

第 27 条 生徒が、傷病その他やむを得ない理由のため欠席しようとするときは、保護者等は、欠席届を校長に提出しなければならない。

(出席停止)

第 28 条 校長は、生徒が感染症にかかり、又はそのおそれがあるとき、その他必要があると認めるときは、その生徒に対し、出席停止を命ずることがある。

(忌引)

第 29 条 校長は、生徒が親族の死亡により忌引を願い出たときは、これを許可することがある。

2 忌引の日数は、次のとおりとする。

(1) 父母 7 日

(2) 祖父母・兄弟姉妹 3 日

(3) 伯父・叔父・伯母・叔母・同居家族 1 日

(氏名又は住所の変更)

第 30 条 生徒は、氏名・住所の変更等身上事項について異動があったときは、速やかに生徒等身上事項異動届を校長に提出しなければならない。

2 保護者等の変更又はその氏名若しくは住所に変更があったときは、速やかに生徒等身上事項異動届を校長に提出しなければならない。

第 6 章 賞罰

(表彰)

第 31 条 校長は、他の生徒の模範となる行為のあった生徒を表彰することがある。

(懲戒)

第 32 条 校長は、教育上必要があると認めたときは、生徒に懲戒を加えることがある。

2 懲戒は、その程度により、訓告、停学及び退学の処分とする。ただし、退学は、

次の各号のいずれかに該当する者に対してのみ行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由がなくて出席常でない者
- (4) 学校の秩序を乱し、その他生徒としての本分に反した者

第7章 授業料等

(授業料等)

第33条 入学検定料、入学料及び授業料の取扱いについては、県立学校の授業料等の徴収に関する条例(昭和33年神奈川県条例第3号)の定めるところによる。

2 校長は、正当な理由がなく授業料が納付期限までに納付されないときは、該当生徒に対して出席の停止又は退学の処分を行うことがある。

第8章 職員組織

(職員組織)

第34条 本校の職員組織は、校長が別に定める。

第9章 補則

(補則)

第35条 この学則の施行に関し必要な事項は、校長が定める。

附則

- 1 この学則は、昭和39年4月1日から施行する。
- 2 令和2年度における第9条第2項の規定の適用については、同項中「60日以内」とあるのは「40日以内」とする。

附則

この学則は、昭和50年4月1日から施行する(昭和50年4月改正)

改正後の規定は、昭和50年4月1日以降に高等学校の第1学年に入学する生徒に係る教育課程から適用する。

附則(昭和56年1月改正)

この学則は、昭和56年1月1日から施行する。

附則(昭和57年4月改正)

この学則は、昭和57年4月1日から施行する。

改正後の規定は、昭和57年4月1日以降に高等学校の第1学年に入学する生徒に係る教育課程から適用し、同日前に入学した生徒に係る教育課程については、なお従前の例による。

附則(昭和58年8月改正)

この学則は、昭和58年8月1日から施行する。

附則(昭和60年3月改正)

この学則は、昭和60年3月8日から施行する。

附則

この学則は、昭和 63 年 4 月 1 日から施行する。

附則

この学則は、昭和 63 年 11 月 1 日から施行する。

附則

この学則は、平成 4 年 7 月 1 日から施行する。

附則

この学則は、平成 4 年 9 月 1 日から施行する。

附則

この学則は、平成 5 年 4 月 1 日から施行する。

附則

この学則は、平成 7 年 4 月 1 日から施行する。

附則

この学則は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附則

この学則は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

附則

この学則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附則

この学則は、平成 19 年 12 月 26 日から施行する。

附則

1 この学則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

2 学則の施行の日の前日において本校に在学する生徒の在学年限については、次の各号に掲げる生徒の区分に応じ、当該各号に定める日までの間は、改正後の第 5 条第 2 項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

(1) 平成 19 年 4 月 1 日から平成 20 年 3 月 31 日までの間に入学した生徒

平成 26 年 3 月 31 日

(2) 平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日までの間に入学した生徒

平成 27 年 3 月 31 日

(3) 第 1 号及び第 2 号に掲げる期間以外の期間に入学した生徒

平成 25 年 3 月 31 日

附則

この学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附則

この学則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附則

この学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附則

この学則は、平成 30 年 5 月 10 日から施行する。

附則

- 1 この学則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の第 12 条第 2 項の規定は、平成 31 年 4 月 1 日以降に高等学校に入学する生徒（学校教育法施行規則(昭和 22 年文部省令第 11 号)第 91 条の規定により入学する生徒であって同日前に入学した生徒に係る教育課程により履修するものを除く。)に係る教育課程から適用し、同日前に高等学校に入学した生徒（同日以降に同条の規定により入学する生徒であって同日前に入学した生徒に係る教育課程により履修するものを含む。)に係る教育課程については、なお従前の例による。

附則

この学則は、令和 2 年 7 月 22 日から施行する。

附則

この学則は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。